

<東日本大震災 臨時号 No.5>

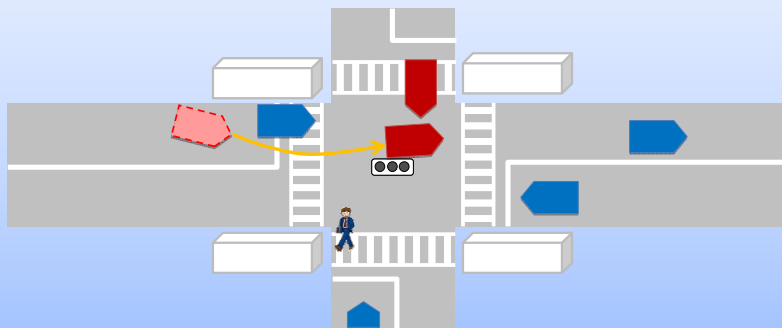
計画停電地域での交通リスク ～警察官等のいない交差点の実態②～

東日本大震災による計画停電により、交差点では信号が滅灯し、多数の警察官等が手信号による交通整理にあたっているが、大半の交差点では警察官等が配置されていない。本レポートでは警察官等がいない交差点での状況取材し、実際の交通状況から想定される事故及び対応方法について検討する。

交差点のリスク実態 ～優先道路の判断が難しいケース～

弊社研究員が下図のような環境の交差点において信号が滅灯している時の交通実態を取材した。

交差点概況



警察官等がいない滅灯信号
交差点での危険場面

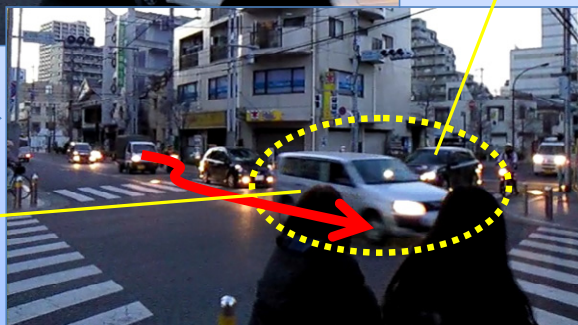


※都内某所にて、弊社研究員が撮影

車両通行が錯綜し、交差点に進入できず停車

直進車が交差点進入

後続の車が追い越し、急発進で交差点を直進



・ほぼ同じ道路幅の交差点で通行が錯綜

・車(黒の小型車)が横断歩道上で一時停止した時に、しびれを切らした様子の後続車(白のワゴン車)が急発進で追い越し

・ワゴン車が直進しようとした時、交差する車が既に交差点に進入していた

周囲に早めの意思表示を心がけましょう！

- ①交差点に進入する前から周囲(前後左右)へ明確な意思表示をする。
→ 早めのウインカー、窓から手を出して合図する、左折時は左へ寄る等、自ら率先してコミュニケーションをとる
- ②安全が確認できるまで待つ。車や人が止まってくれた場合でも、周囲の状況を再確認する。
→ 道路幅が同じような交差点では左方優先が原則だが、理解していないドライバーがいることを想定する
- ③安全確認後、ゆっくり発進し、徐行で通過する。

対応